0057786000

0057786-000

特２４６－５０５

世界に誇る日本海軍の威容

学芸研究会

昭和１１

AJG

339
特246
505

世界に誇る帝國海軍の威容

大觀艦式記念

五錢

学芸研究会発行

特246
505

大觀艦式記念

世界に誇る日本海軍の威容

學藝研究會發行

はしがき

海國日本の我等を護る無敵艦隊は、連日の大訓練に疲勞の色も見せず、今秋十月廿九日至尊を迎へ奉りて、波をさまる大阪灣上茅渟の海に、嚴かに行はれる榮光の大觀艦式に畢つて雄姿を列することになつた。

惟ふに明治元年三月廿六日、曉鐘鳴り響く新日本建設史の第一ページに、畏くも明治大帝が各藩の軍艦を御親閲遊ばされた、その同じ灣上に理解なき優越主義を打破した無條約時代への第一歩を整へる意義深いこの特別大演習後の大觀艦式を望む我等關西の民草は、歡びの思ひに胸はハチ切れ「どんな軍艦が來るであらうか」、と待ちわびる心は日一日と加速度的に募る、茲に「世界に誇る日本軍艦の威容」を識し、聊か參考の資を捧げ、共に海軍將士の勞を犒ふこともなれば幸である。

編者しるす

目次

一、正義の國我等の日本……（五）
二、過去の戰禍と血の犧牲……（六）
三、列强の日本海軍牽制……（七）
四、眞の支那救濟は我帝國……（八）
五、支那は何故狂鬪するか……（九）
六、日本は東洋平和の盟主……（一〇）
七、日本國民の重責迫る……（一一）
八、我に天下無敵艦隊あり……（一二）
九、軍艦と大砲の力と距離……（一三）

一〇、我等を護る帝國艦船……（一四）
戰鬪艦＝練習戰艦＝一等巡洋艦＝二等巡洋艦＝航空母艦＝潛水母艦＝敷設艦＝海防艦＝砲艦＝特務艦＝標的艦＝測量艦＝運送艦＝碎氷艦＝一等驅逐艦＝二等驅逐艦＝一等潛水艦＝二等潛水艦＝水雷艇＝掃海艇等
各艦別の名稱、長サ、排水量、速力、備砲發射管、竣工年月、製造所等の詳細說明
附錄　大觀艦式參列艦船配置略圖と觀艦心得

世界に誇る日本海軍の威容

一、正義の國我等の日本

一旦緩急あれば國を擧げて義勇公に奉ずることは、我等國民が世界に誇る傳統的に享受する日本魂の本源である。

そして我國は肇國以來三千年、常に八紘一宇の理想をもつて、終始して居る理想國家であつて、惟神道の顯現をもつて本旨とし、皇道布施の形によつて、皇化を四海に布くことを國是として來たのである、が偶々「まつらはぬ」ものゝ出現した時に際し、これを「まつろはす」最後の手段として「あらみたま」の發動としての、戰爭を實行したのである。

從つて我が天皇の行はせられる戰爭は、侵略でもなく政策の遂行でもなく、眞に「道」の戰である、換言すれば惟神道顯現のための「行」であり、聖戰である。この觀念は古往今來三千年の間、何の變化もなく我が國民の常に把持し來つた戰爭觀であつて、西洋人が漸く自衛權の發動と云ふことに、戰爭を認識して來たことは、稍や我國の戰爭觀に接近したやうであるが、尙ほ且つ本當の日

本魂の本體を知るものとは云ひ得られない、故に稍やともすると、我が帝國の正義なる發動をも曲解することのあるのは、重ね〳〵遺憾とする所である。

二、過去の戰禍と血の犧牲

しかし我國は外國と交はるに及び、既に半世紀以上にわたり、國際團体の一員たる資格を認められたるが故に、あらゆる柔順、謙讓、慇懃、儀禮を盡して餘す所なかつたにも拘らず敵意、壓力、侮蔑を以つて酬ひられたるために、嘗ての戰爭の多くは止むを得ず遂に戈を逆にして、その與へられたる國家の地位、名譽、尊嚴を維持する爲に行はれたものである、即ち日本が過去において、國際場裡で忠實なりし事は、その歴史的足跡を想起するならば、何等の解說意見を加ふることなく、單に事實の連鎖を指摘するのみで、充分その理由のあることを證明することができる。

過ぐる年、國士を擧げて戰つた、日清戰役の清算に當つて、日本は三國干涉により當然獲得さるべき、遼東半島を還附した、また日露戰役において拂つた犧牲の代償として、日本の得た所のものは、滿洲の限られた利權、北洋漁業權、不毛のサガレン南半に過ぎなかつた、更に日英同盟に對する義務を遵守するために加はつた歐洲大戰において、現實に獲得せる山東州の如きは、惜氣もなく

これを支那に還附した。

三、列强の日本海軍牽制

そして歐洲大戰參加の報酬として、我が日本の得たものは何であつたか、即ち山東還附を決意したのは、列國をして滿洲における既得權益を、再認識せしめる爲であつたにも拘らず、華府會議において彼等の企圖した所は、日英同盟に代ふるに四國條約の空文を以つてし、東亞における日本の行動の自由を、抑制するために改めて九國條約を締結し、さらに該條約の實行を保證する目的から對英米六割の海軍制限條約を締結せざるの止むなきに至らしめた。

華府會議において、日本に國際的桎梏を加ふることに成功した英米が、その後における極東外交の數々は、假に惡氣がなかつたにせよ、結果より見れば支那を邪道に啓發して、只管日本に當らしむることに、あつたとしか解し得られない。

即ち戰債問題、對獨賠償問題、經濟復興問題さらに通商貿易戰を繞つて、英米單獨乃至は、米國と歐洲諸國との間では、幾度か樂屋うちの深刻なる抗爭を繰返し來つたにせよ、事一度東亞問題に及べば、少くとも英米は共同戰線を張つて、日本に對抗して來たことは我等の記憶に尙ほ新たなる

所である。

四、眞の支那救濟は我帝國

而も二五年の支那特別關稅會議において、日本が提唱權を獲得した支那關稅自主權確認の一投石は、英米に異常の衝動を與へ、二七年の暮から二八年の春にかけて、英米の相次ぐ對支自由政策宣言を誘導した、その結果は支那の不平等條約撤廢、國權回復運動を助長せしめたのである。

支那を國家の擬制より救濟し、これに完全國家の資格を與へ、その國際的地位を向上せしめることは、日本の希望であり何等異議なき所である、但しこの理想を實現する具體的方法を講ずるに際しては、支那の民族性、風俗、習慣、歷史、社會組織、文明の段階等一切の實體を直觀して、責任あり且つ合法的手段を選ばなければならぬ、

然るに既成條件を無視し、國際公約を跳躍し、徒らに賣恩的行動を執る場合、全然その企圖するところと、逆の現象を來たして、無暗に支那を刺激使嗾することにより、最も迷惑を蒙むるものは隣邦の我が日本帝國である位ひは、英米側の能く知悉して居たことであり、また無批判なる對支自由政策が、如何なる歸結に到着するかは、豫め想像に難からなかつたのである。

五、支那は何故狂鬪するか

斯くて支那の關稅自主權確認問題にせよ、治外法權撤廢問題にせよ、日本は合理的且つ漸進主義をもつて處理せんとし、而も事前に英米に對して腹藏なく試案を提示し、飽くまで協調主義をもつて、終始せんとしたのである。

然るに彼等は日本との紳士的諒解を破り、日本に依つて示敎された腹案を、あらうことかあるまいことか、拔き駈け的に支那に提示し、その歡心を買ふことに汲々とした、かくて日本を含む關係國と、支那との間に惹起されたものは、濟南、南京、漢口等の諸事件をはじめ、英租界の還附、廣東貿易の壞滅、支那全版圖における排外運動の激化であつた、かくて支那は全く放蕩兒の如く荒れ狂ふたのである。

併し何人も隣家に住むこの放蕩兒が、放火常習犯として、自家に油を注ぎつゝあるのを見て、徒に保險に加入して居るとの故を以つて、無爲に傍觀するを許さざるが如く、三一年九月十八日の滿洲事變における日本軍の行動は、即ち斯うした自衛權に依つて現はた當然の歸趨である。

然るに國際聯盟と云ふ保險會社は、この支那の放火常習犯に等しき素性に對する心證判斷を誤つ

て、却つてこれを庇護せんとする行動に出たのである、故に斯の如き保險會社に對する契約は、速に破棄するほかはなく、遂に二三年三月廿五日の我が國際聯盟脱退の斷行となつたのである。

六、日本は東洋平和の盟主

顧みれば三國干渉に依る遼東半島の還附以來、僅々四十數年に垂んとする間において、日本は滿洲全版圖に關する限り、世界の殆ど全部を擧げて、明確なる反對意思を表明し來りたるにも拘らず勇敢にもこれを退けて所信を斷じ得る意義ある新日本となつたのである、

日清、日露の兩役乃至は世界大戰に至る間の日本は、世界における自國の國際的地位を確信せしめる時期であつたが、世界大戰を清算する際の國際條約の數々に依つて、日本は他動的に英米佛伊と伍して、世界のいはゆる五大國の一員たる地位を認められた。

併し滿洲事變、上海事變を敢行し、遂に聯盟脱退を辭せざるに至つた後の新日本は、世界のいづれの國家と雖も、その好むと好まざるを問はず、東亞の政局調整に關する限り絶對に第三國の容喙を許さざるべきことを宣言し、眞に東洋平和の盟主たるべき資格と用意あることを闡明し、一方において國備均等權を基調とすべき新方式が、日英米三國に採用せらるべきことを提案して、關係列

國に異常な衝動を與へた、かくて相手方がこれを容れず、これまた日本の華府條約廢棄の通告を止むなからしめたのである。蓋し日本の條約廢棄に依つて、華府條約そのものを、全然解消の運命に至らしめ、政治的見地より見たる日本は、國際場裡において、今やその所信を獨斷遂行し得るに至つたことは、全國民が正義に依る國防充實に懸命なりし賜にほかならないのである。

七、日本國民の重責迫る

併し滿洲事變以來世界列强をして、日本に對する經濟的國家主義、極端なる保護貿易政策敢行を容易ならしめた觀はあるが、日滿經濟ブロツクの强化、日支通商貿易關係の再調整等に依つて、これに拮抗し得る餘地は多分に殘されて居る。

これを要するに國際非常時に處して、當該國家若くは民族が、不屈の忍從をもつてこれを押切る勇氣があれば、その國家若くは民族は無限に躍進するものである、殊に日本民族にその可能性ある限り、日本の當面する國際非常時局は、豫想外無難に切拔け得るのは勿論、日本の國際的地位は確固不拔のものとして、微動だにしなくなるのは火を見るよりも明ふである、

併し幾ら非常時であつても、國民擧つて軍務に從事することは出來ない、そこで陸には陸軍があ

り、海には海軍があり、空には空軍があつて、常に我等國民を保護しその權益の擴充に努めて居るのであるが、殊に我等はこの光輝ある昭和十一年の秋、大阪灣においてみそなはせられる大觀艦式に際して、忠勇なる我が海軍將士の德を偲ぶと共に、その威容を讃えずには居られない。

八、我に天下無敵艦隊あり

我が海軍は日清戰役の勃發するや、朝鮮沖および勃海において、敵の新鋭戰艦より成る大艦隊を激擊し、能くこれを擊沈或は降伏せしめて大捷を博し陸軍の用兵を自由ならしめて日清戰役の勝利を我に歸せしめたるのみならず、日露戰爭においては仁川沖の戰に端を切り、敵のバルチック艦隊および浦擅艦隊を全滅せしめ、以て陸軍の輸送掩護に任じ、制海權を獲得し、更に隨時の事變に際しては陸戰隊を以つて海外在住居留民の保護に當りまた陸軍の上陸に便ならしめ、平時は我が領土の海權を護り、貿易の進展に貢献することは、我等の常に感謝措く能はざる所である。

だが海軍の任務は何れも制海權の擁護であつて、若し戰爭の勃發した場合、勝者は制海權を獲得し、これを行使して敵國を經濟的に封鎖し、或は陸軍を輸送し、敵國に徹底的打擊を加へさせしめ以つて自國の權益を擁護せしめるものであるが、併し時としては海戰に勝利を得ることにおいて、

對手をして戰意を放棄せしめ得ることがある、即ち日本海の海戰などは、その顯著なる實例である。

斯の如く我海軍は既にこの實驗を有ち、權謀術策益々妙を得て、世界いづれに需むるとも、これに匹敵するものなき所謂無敵艦隊の令名を海外に轟かして居ることは、國民の共に安んじてその職に從事得しる確證を與へて居る、イザ我等は姑くこの無敵艦隊の將來への榮えを祝福し、その大威容を表に依つて說明することにした。

▼ 軍艦と大砲の力と距離

ワシントン會議は主力艦の主砲を、四十サンチ（十六インチ）までに制限したのであるが、これがために世界の戰艦の主砲は、どれもこれも競ふて最大限の四十サンチまで膨くらすやうになつた。

我國の長門、陸奥兩艦の主砲は四十糎砲が各八門宛備付けられてある、この大砲がダン……と齒切れのいゝ底力で、一發敵に向つて放たれたると、タマは三萬四千米（八里半）の遠距離に達し、而もその距離にある厚さ十インチ（約八寸）の鋼鉄鈑を貫く力を持つて居るから實に物凄い勢である。

黃海の戰は二千五百メートルの距離であり日本海の大戰は六千メートルの勝負であつた、所が現在は三萬四千米の彼方に、葉卷の煙くらゐに見へた發射彈が、瞬く間に見舞はれるのであるからこれに連れて軍艦の形も、海軍の戰略も日清、日露戰役の時代とはガラりと變つて來た、幸に今度の大觀艦式に艦船の參觀を許されるに當つては、次の表に照して皇國海軍の威容を知らねばならぬ

◉我等を護る帝國艦船

戰艦の部

艦名	長サ(米)	排水量(トン)	速力(節)	備砲	發射年月	竣工年月	製造所
▼戰艦							
金剛	一九九・二	二九、三三〇	二六・〇	三六糎(八)五糎(一六) 二・七糎高角(八)機銃(七)	四 大三、八	英國ヴ社	
霧島	同	同	同		大四、四	三菱長崎	
榛名	同					神戸川崎	
扶桑	一九二・〇二	三〇、〇〇〇	二三・五	三六糎(一二)五糎(一六)三・七糎高角(八) 機銃(一九)	二 大四、二	吳工廠	
山城	同	同	同	三六糎(一二)五糎(一六)二・七糎高角 (八)機銃(七)	二 大六、三	横須賀工廠	
伊勢	一八五・〇七	二九、九六〇	二二・〇	三六糎(一二)一四糎(一八)三・七糎高角(八) 機銃(七)	四 大六、一三	神戸川崎	
日向	同	同	同		大七、四	三菱長崎	
長門	二〇一・三五	三三、七二〇	同	四〇糎(八)二四糎(一〇)三・七糎高角(四) 機銃(七)	六 大九、二	吳工廠	
陸奥	同	同	同		大十、一〇	横須賀工廠	

▼練習戰艦							
比叡	一九九・一九	一九、五〇〇	一八・〇	三六糎(六)一五糎(一六)三・七糎高角(四) 八糎高角(四)機銃(二)	— 大三、八	同	
▼一等巡洋艦							
加古	一七六・七八	七、一〇〇	三三・〇	二〇糎(六)二三糎高角(四)機銃(六)	三 大一五、七	神戸川崎	
古鷹	同				大一五、三	三菱長崎	
衣笠	同			二〇糎(六)二三糎高角(四)機銃(一〇)	同 昭三、九	神戸川崎	
青葉	同					三菱長崎	
妙高	一九二・〇七	一〇、〇〇〇	同	二〇糎(一〇)二三糎高角(六)機銃(一〇)	同 昭四、七	横須賀工廠	
那智	同				昭三、一一	吳工廠	
足柄	同				同 昭四、八	神戸川崎	
羽黑	同				同 昭四、四	三菱長崎	
高雄	一九八・〇〇	九、八五〇	同	二〇糎(一〇)二三糎高角(四)機銃(四)	八 昭七、五	横須賀工廠	
愛宕	同				昭七、三	吳工廠	
鳥海	同				昭七、六	三菱長崎	

▼二等巡洋艦

摩耶	同	—	—	同	神戸川崎	明四五、六	三
平戸	一三四・一米	四、四〇〇噸	二六・〇節	一五糎(八)八糎(三)八糎高角(三)機銃(三)	三菱長崎	明四五、七	六
矢矧	同	同	同	同	横須賀工廠	大八、二	六
天龍	同	三、三〇〇	三一・〇	一四糎(四)八糎高角(一)機銃(二)	佐世保工廠	大八、三	六
龍田	同	同	同	同	同	大九、八	八
球磨	一五一・四〇	五、一〇〇	三二・〇	一四糎(七)八糎高角(二)機銃(二)	三菱長崎	大七、一	八
多摩	同	同	同	同	佐世保工廠	大七、四	八
北上	同	同	同	同	神戸川崎	大七、十	八
大井	同	同	同	同	三菱長崎	大七、五	同
木曾	同	五、一二〇	同	一四糎(七)八糎高角(二)機銃(六)	佐世保工廠	大二、四	同
長良	同	同	同	同	浦賀	大三、八	同
五十鈴	同	同	同	同	三菱長崎	大二、九	同

由良	同	同	同	同	佐世保工廠	大三、三	同
鬼怒	同	同	同	同	神戸川崎	大二、二	同
阿武隈	同	同	同	同	浦賀	大三、四	同
那賀	同	五、一九五	同	同	横濱	大一四、二	同
川内	同	同	同	同	三菱長崎	大一三、四	同
神通	同	同	同	同	神戸川崎	大一四、七	同
夕張	一三二・五九米	二、八九〇	同	一四糎(六)八糎高角(一)機銃(二)	呉工廠	大三、七	四
最上	一九〇・五〇	八、五〇〇	三三・〇	一五・五糎 一五)二二・七高角(八)機銃(六)	呉工廠	昭一〇、五	三
熊野	同	同	同	同	三菱長崎 横須賀工廠	昭一〇、五	同

▲航空母艦

鳳翔	一五五・四五米	七、四七〇噸	二五・〇節	一四糎(四)八糎高角(二)機銃(二)	—	大二、三	浅野造船所

加賀	二一七・九三	二六、九〇〇	二二・〇	二〇糎(一〇)機銃(三)三糎高角(一三)	一	昭三、三	横須賀工廠
赤城	二三二・五六	同	二八・五	同	一	昭二、三	呉工廠
龍驤	一六七・二〇	七、一〇〇	二五・〇	一三・七糎高角(一三)機銃(二四)	一	昭八、五	横須賀工廠
蒼龍							

▼潜水母艦

駒橋	八四・一米	一、一三五噸	一三・九節	八糎(八)八糎高角(一)	一	大三、一	佐世保工廠
迅鯨	一一五・八二	五、一五〇	一六・〇	一四糎(四)機銃(二)八糎高角(二)	一	大八、八	三菱長崎
長鯨	同						
大鯨	一九七・三〇	一〇、〇〇〇	二〇・〇	一三・七糎高角(四)機銃(二)	一	大一三、八	同 横須賀工廠
						昭九、三	

▼敷設艦

常盤	二二四・三六米	九、二四〇噸	二一・二五節	二〇糎(二)五糎(六)機銃(二)八糎(二)	一	明三三、五	英ア社
勝力	七三・一五	一、五四〇	一三・〇	八糎高角(一)	一	大六、一	呉工廠
白鷹	七九・二〇	一、三四五	一六・〇	八糎(三)	一	昭四、四	石川島
嚴島	一〇〇・〇〇	一、九七〇	同	一四糎(三)八糎高角(二)	一	昭四、一三	浦賀

八重山	八五・五〇	一、一三五	二〇・〇	一糎高角(二)機銃(二)	一	昭七、六	呉工廠

▼海防艦

浅間	一二四・三六米	九、二四〇噸	二一・二五節	二〇糎(四)八糎(四)機銃(三)一五糎(二)	三	明三三、三	英ア社
八雲	一二四・六六	九、〇一〇	一六・〇	八糎高角(一)	二	明三三、六	獨ヴ社
吾妻	一三五・八九	八、六四〇	同	同	四	明三三、七	佛ロ社
出雲	一三一・九二	九、一八〇	二〇・七五	二〇糎(四)八糎(四)機銃(三)一五糎(一四)	二	明三三、九	英ア社
磐手	同						
春日	一〇四・八六	七、〇八〇	一六・〇	八糎高角(一)	三	明三四、三	同
對島	一〇一・〇一	三、一二〇	二〇・〇	二五糎(一)八糎(四)機銃(二)一五糎(一四) 二〇糎(二)八糎高角(一) 一五糎(六)八糎(八)八糎高角(一) 機銃(一)	同 一	明三七、二 明三七、二	伊ア社 呉工廠

▼砲艦

淀	八五・三四米	一、三二〇噸	二一・〇節	八糎(二)機銃(一)	二	明四一、四	神戸川崎
安宅	六七・六七	一、七二五	一六・〇	三糎(二)八糎高角(二)機銃(六)	一	大二、八	横濱
鳥羽	五四・八六	一、二二五	一五・〇	短八糎(二)機銃(六)	一	明四四、二	佐世保工廠
嵯峨	六四・〇〇	八八五	同	三糎(一)八糎高角(三)機銃(六)	一	大元、二	同

勢多	五四・八六	同	一、〇〇〇	一六・〇	八糎高角(二)	一	大三・10
堅田	同					一	同
比良	同					一	大三、八
保津	同					一	大三、一一
熱海	四五・三〇	一、一七〇	同		短八糎高角(一)機銃(六)	一	昭四、六
二見	同					一	昭五、二

播磨造船所
同
三菱神戸
同
三井
勝永田

特務艦の部

艦名	排水量(トン)	速力(節)	砲	竣工年月	製造所
▼練習特務艦					
朝日	二、四四一	一八・三〇		明三三、七	英國ジ社
敷島	二、三七五	一八・六〇		明三三、一	英國テ社
富士	九、一七九	一八・三五		明三〇、八	同
▼標的艦					
磐津	一六、一三〇	二一・〇〇		明四五、七	呉工廠

以上のうち朝日、敷島、磐津の三艦は華府條約の規定に依り戰闘任務に堪へざるものとなし保存し得たるものである

▼測量艦						
膠州	二、〇八〇	一〇・三〇	八糎(二)	明三七、六	獨逸	
▼運送艦						
青島	七、五四二	一〇・〇〇	八糎(二)	明三九、三	獨逸	
洲崎	八、八〇〇	一四・〇〇	一二糎(二)八糎高角(二)	大七、九	横須賀工廠	
室戸	八、二一〇	一三・五〇	一二糎(二)	大七、一二	三菱神戸	
野島	同	同	同	大八、三	同	
能登呂	一四、〇五〇	一三・〇〇	一二糎(二)八糎高角(二)	大九、八	神戸川崎	
知床	同			大九、九	神戸川崎	
襟裳	同			九、三	同	

佐多	同			一四糧(三)八糧高角(二)	一〇、二	横濱造船所
鶴見	同				二、三	大阪鐵工所
尻矢	同				二、二	横濱造船所
石廊	同				二、一〇	大阪鐵工所
神威	一七、〇〇〇	一五・〇〇			二、九	米國
隱戸	一四、〇五〇	二・〇〇			三、三	神戸川崎
早鞆	同				二三、五	吳工廠
鳴戸	同				二三、一〇	横須賀工廠
間宮	一五、八一〇	一四・〇〇				神戸川崎
劍崎	一〇、〇〇〇					横須賀工廠
高崎						

▼碎氷艦

大泊	二、八三〇噸	一三・〇〇節	八糧(二)	大一〇、二	神戸川崎

○驅逐艦の部

艦名	排水量(トン)	速力(節)	竣工年	製造所
▼一等驅逐艦				
浦風	二、一〇〇噸	三六・〇	大四	英國
江風	三糧(一)八糧(四) 一、一八〇	三四・〇	同七	横須賀
峯風	三糧(三)機銃(二) 一、三三〇		同九	舞鶴
澤風	同		同	三菱
沖風	同		同	舞鶴
島風	同		同	同
灘風	同		大一〇	同
矢風	同		同九	三菱
羽風	同		同九	同
汐風	同		同一〇	舞鶴
秋風	同		同	三菱
夕風	同		同	同
太刀風	同		同	舞鶴
帆風	同		同一一	同
野風	同			
波風	同			
沼風	同			
以上十五隻は何れも三糧(四)機銃(二)				
神風	一、一五〇	三四・〇	大一一	三菱
朝風	同		同一三	同
春風	同		同	舞鶴
松風	同		同一三	同
旗風	同		同	同
追風	同		同一四	浦賀

疾風　同一四　石川島
朝凪　同一三　藤永田　吹雪　一、六〇〇　同　昭三　舞鶴
夕凪　同一四　佐世保　白雪　同　同　横濱
睦月　一、三二五　同　同一五　同　初雪　同　昭四　舞鶴
如月　同一五　舞鶴　叢雲　同　昭四　藤永田
彌生　同一五　浦賀　東雲　同　三　佐世保
卯月　同一五　石川島　薄雲　同　三　石川島
皐月　同一四　藤永田　白雲　同　三　藤永田
水無月　同　昭二　浦賀　磯波　同　三　浦賀
文月　同　大一五　藤永田　浦波　同　四　佐世保
長月　同　昭二　石川島　綾波　同　五　藤永田
菊月　同　大一五　舞鶴　敷波　同　四　舞鶴
三日月　同　昭二　佐世保　朝霧　同　五　佐世保
望月　同　浦賀　夕霧　同　五　舞鶴
夕月　同　藤永田　天霧　同　五　石川島

以上二十一隻は何れも三種(四)機銃(三)

狭霧　同　昭六　浦賀　夕暮　一〇　舞鶴
朧　同　六　佐世保　白露　佐世保
曙　同　六　藤永田　時雨　浦賀
漣　同　七　舞鶴　夕立　佐世保
潮　同　六　浦賀　春雨
曉　同　七　佐世保
響　同　八　舞鶴
雷　同　七　浦賀
電　同　七　藤永田

以上二十三隻は何れも三・七種(六)機銃(二)

初春　一、六六八　昭八　佐世保
子日　同　八　浦賀
若葉　一、三七八　同　九　佐世保
初霜　同　九　浦賀
有明　同　一〇　川崎

▼二等驅逐艦

桃　七五〇　大五　佐世保
樫　同　六　舞鶴
檜　同　六　同
柳　同　六　佐世保
桑　七一〇　昭一　吳
槇　同　七　佐世保
櫟　同　七　同
椎　同　九　横須賀

楡	同	九	呉	
栗	同	九	同	
梨	同	八	川崎	
竹	同	八	同	
柿	同	九	浦賀	
榊	同	九	石川島	
菊	同	九	川崎	
葵	同	九	同	
萩	同	一〇	浦賀	
薄	同	一〇	石川島	
藤	同	一〇	藤永田	
蔦	同	一〇	川崎	
華	同	一〇	同	
菱	同	一一	浦賀	
蓮	同	一一	同	
菫	同	一三	石川島	
蓬	同	一一	同	
蓼	同	一一	藤永田	
若竹	八〇〇	同	一一	川崎
呉竹	同	一一	同	
早苗	同	一三	浦賀	
朝顔	同	一三	石川島	
夕顔	同	一三	同	
芙蓉	同	一三	藤永田	
刈萱	同	一三	同	

以上三十三艦は何れも三糧(三)機銃(三)

○潜水艦の部

艦名	排水量(トン)	速力(節)	竣工年	製造所

▼一等潜水艦

伊號第一	一九五〇	一七・〇	大一五	川崎
同第二	同	同	同	同
同第三	同	同	同	同
同第四	同	同	昭四	同
同第五	同	同七	同	同
同第六	同	同九	同	同

以上六艦は何れも二糧(二)機銃(一)

同第二十一	一、二四一	一四・〇	昭二	同
同第二十二	同	同	同	同
同第二十三	同	同	昭三	同
同第二十四	同	同	同	同

以上四艦は何れも二糧(一)機銃(一)

同第五十一	一、三九〇	一七・〇	大一三	呉
同第五十二	同	一九・〇	同一四	同
同第五十三	一、六三五	同	昭二	同
同第五十四	同	同	同	佐世保
同第五十五	同	同	同	呉
同第五十六	同	同	昭四	同
同第五十七	同	同	同	同
同第五十八	同	同	昭三	横須賀
同第五十九	同	同	昭五	同
同第六十	同	同	昭四	佐世保
同第六十一	同	同	同	三菱
同第六十二	同	同	昭五	同
同第六十三	同	同	昭三	佐世保
同第六十四	同	同	昭五	呉

以上十四艦は何れも十二糧(一)機銃(一)

同第六十五	一、六三八	同	昭七	同

同第六十六	同	同	佐世保	同
同第六十七	同	同	三菱	同
同第六十八	一、四〇〇	同	昭八	吳
同第六十九	同	昭九	三菱	同
同第七十	同	昭一〇	佐世保	同
同第七十一	同	昭九	川崎	同
同第七十四	同	昭	佐世保	同
同第七十五	同	昭	同	同

▼二等潛水艦

呂號第十七	七三五噸	一九・〇節	大一〇	吳
同第十八	同	同	同	同
同第十九	同	同	大一一	同
同第二十	同	同	同	横須賀
同第二十一	同	同	大一〇	同
同第二十二	同	同	大三	同
同第二十五	同	一七・〇	大一三	佐世保
同第二十六	七四六	一六・〇	大一三	同
同第二十七	同		大一三	横須賀
同第二十八	同		大三	佐世保
同第二十九	六五五	一六・〇	同	川崎
同第三十	同		大一三	同
同第三十一	同		昭一一	同
同第三十二	同		大一三	同
同第三十三	同		昭一〇	吳
同第五十一	八九三	一七・〇	大九	三菱
同第五十三	同		大一〇	同
同第五十四	同		同	同
同第五十五	同		同	同
同第五十六	同		大一	同

同第五十七	八八九	同	同	同
同第五十八	同	同	同	同
同第五十九	同	大三	同	同
同第六十	九八八	一六・〇	同	同
同第六十一	同	大一三	同	同
同第六十二	同	同	同	同
同第六十三	同	同	同	同
同第六十四	同	大一四	同	同
同第六十五	同	大一五	同	同
同第六十六	同	昭二	同	同
同第六十七	同	大一五	同	同
同第六十八	同	大一四	同	同

○水雷艇の部

艦名	排水量（トン）	速力（節）	竣工年	製造所
▼水雷艇				
千鳥	五二七噸	二六・〇節	昭八	舞鶴
眞鶴	同		昭九	藤永田
友鶴	同		同	舞鶴
初雁	同		同	藤永田
鴻	同		昭一〇	舞鶴

○掃海艇の部

艦名	排水量（トン）	速力（節）	竣工年	製造所
▼掃海艇				
第一號	六二五噸	二〇・〇節	大一三	播磨

第二號	同	同	玉造	
第三號	同	同	大阪	
第四號	同	大一四	佐世保	
第五號	同	昭四	玉造	
第六號	同	同	大阪	
第七號	1,000	二四〇	明四四	舞鶴
第八號	同	同	同	三菱
第九號	七六〇	同	大七	横須賀
第十號	同	同	同	舞鶴
第十三號	三五〇〇	二〇〇	昭八	藤永田
第十四號	同	同	同	大阪
第十五號			昭九	藤永田
第十六號			同	玉造
第十七號			昭一〇	大阪

備考

表中の符合は次に參考として示します

一、噸(トン)は排水量であつます

一、節(ノット)は一海里であります

一、備砲の糎(センチメートル)は百分の一メートル即ち約三分三厘で砲の直徑であります、例へば四十糎と記されたるものは直徑約一尺三寸二分の大砲であります

一、表中に只「同」の一字のみ上部にあるのは前記の軍艦とすべて同一であることを記したものです

一、表中「同」以外に明記したものはその部分のみ前記艦と異る印であります

昭和十一年十月五日　印刷
昭和十一年十月十日　發行

世界に誇る日本海軍
定價金五錢
郵稅二錢

大阪市東淀川區十三西ノ町二丁目十六番地
編輯兼發行人　阿川美哉

兵庫縣尼崎市東御園町六十九番地
印刷人　新開耕文堂印刷所
電話尼崎二二一八番

代表者　新開添司

不許復製

發行所

大阪市西淀川區大仁本町一丁目四十番地
學藝研究會事務所
電話福島三四八四・四八九一番

大阪市東淀川區十三西ノ町二丁目十六番地
學藝研究會
電話北三三九一番
振替口座大阪一二二八〇番

全國各書店各驛構内で販賣して居ますが賣切の際は發行所へ御申込下さい。

339
1091

學藝研究會編

一錢の無駄が百萬圓

菊版六十頁　一冊定價十錢　郵稅二錢

忽ち第三十五版眞に家庭における唯一の修養書附錄廢物利用三十種

學藝研究會編

大阪遊覽案內

袖珍本　一冊定價金五錢　郵稅二錢

既に六十版大阪案內の最リードであり各町名と最寄電車停留所の指示は純大阪人にも至寶である

學藝研究會編

各學校の參考書と各種日記

各學生諸君の參考資料となりまた家庭における父兄の閱讀さるべき良書を澤山出版して居ります

發行所　大阪市東淀川區十三西ノ町二丁目十六番地　學藝研究會　電話福島三四八四・四八九一番　振替口座大阪一二二八〇番

明治チヨコレート

健康美を獲得するには榮養食を攝つて、内面から皮膚の色艶を良くすることが必要です。明治チヨコレートこそは眞にその理想的食品と謂へるのです。それは輕い適度の興奮と清新潑剌の氣分を與へ、豐富な榮養に依つて美しき肉づきを造り色つやを輝かせます

たぐひなき美味・あふるゝ榮養

近代人齊しく愛好の理想的食品

東京・明治製菓株式會社・京橋